

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100273		
法人名	社会福祉法人 扇寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	佐賀県佐賀市嘉瀬町大字扇町2340-1		
自己評価作成日	平成26年3月30日	評価結果市町村受理日	平成26年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム建物の西側には、季節の樹木が植わった庭、建物南に面したテラス、それぞれに、くつろげる空間を設けており、折に触れて日光浴や小規模な散歩を楽しむなど、入居者が季節の瞬間瞬間を楽しめる様、心がけております。実際に、暖かい日光の下では、自然に笑顔がこぼれている入居者の顔を見ることが出来ます。また、玄関を入っただけの地域コミュニティールームは、12名はゆったりと腰を落ち着ける事が出来、イベントなどの際には、ステージを上げて利用できる。加えて、月並みですが、入居者の方々一人一人の健康管理には敏感に対応し、家族との連携も密に行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の西部に位置し、開設から1年を迎える。ホームには地域コミュニティールームが設けられ、運営推進会議のほか、家族会などのイベント時に利用されている。今後は、地域交流を目的とした場の提供などを考えられている。室内は明るく、ゆったりとくつろげる空間の中で、入居者は日々を過ごされている。また、広いテラス、庭は季節の樹木が植えられており、外気に触れ、散歩を楽しむことができる場所となっている。協力医療機関が近くにあり、緊急時や健康面で安心できる体制を取られている。地域は防災に関する意識が高く、小学校と地域が協力・連携する取り組みが活発なこともあり、いろいろな機会を通じて、地域との関わりを深めて行くことが期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事故防止対策、虐待防止策、健康管理、身体拘束廃止対策委員会での基本方針は当該施設の理念を介護職員で周知できるようスタッフの会議を実施。新人職員や介護職員全体で周知できるようなスタッフ会議等の仕組みが出来ていない。	ホームの理念に基づき、業務を実践していけるように、時間を見つけ、可能な範囲で職員を集めて、スタッフ会議を実施し、理念を共有できるように取り組まれているが、職員全体で話し合いの場を持つには至っていない。	今後、職員全体で話し合いの機会を設けるなど、より一層の理念の共有と実践に繋げていけるような取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館行事等に積極的に参加し交流を図っている。また、地域の小学校が活動の拠点となって実践しているので、参加して地元とも交流に努めたい。民生委員氏には「透明性」のある施設ということに興味を持っていただいている。	地域の公民館の行事への参加、ボランティアの受け入れなど交流の機会を取り入れられている。今後は、地区の小学校で開催される地域行事への参加、ホームの地域交流室を民生委員の会議の場として提供することを予定されている。	予定している地域活動や、自治会への参加、ホームの地域交流室を活用した取り組みなど、地域との様々な関係作りに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元行事の「春祭り」等に野菜販売や試食会、作品展など予定されているので、参加を検討している。また、作品展示会の機会には、当該施設での共同作品の出品も検討している。当グループホームの「地域交流室」で、民生委員研修会(勉強会)も開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録は系列会議のみの公表だったので、当該施設の見やすい箇所に公表し、意見や要望、評価をスタッフ会議等にかけて、サービス向上につなげる取り組みを実践している。	入居者本人や家族、民生委員等の各関係者の参加のもと、定期的に会議が行われ、ホームでの活動報告や意見交換がなされている。避難訓練や防災に関する意見や助言を受けるなど、サービス向上や運営のための話し合いの場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「おたっしや本舗昭栄」が主催する『研修会』への参加も出来ている。お互いに情報提供等の関わりを持っている。地域包括支援センターの職員が見学者案内に来所している。地元の認知症の勉強の機会に参加できる。	必要に応じて、保険者に連絡したり、相談に出向いたり、担当区域の地域包括支援センター主催の研修会へ参加するなど、連携を図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で拘束行為について理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の開閉は手動にしており、「パイプチャイム」を設置し、利用者の動きを把握し安全に努めている。	研修やスタッフ会議等を通して、身体拘束に関する内容と弊害に関して共有を図られている。普段の見守りに加え、安全面から離床センサーを備えるなど、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会の開催で通報の仕組み、スタッフ会議などで聞き取りなど対応している。家族会、地域の方の交流の場での注意を払ってゆく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用の学習会は実施していない。研修会の機会に参加予定。介護職員に伝達をします。入居者の中に2名、実際に成年後見人が付いておられるので、スタッフもある程度の興味と知識を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には項目ごとに質問を問う機会を得られるようにし、その度に納得してもらうまで説明している。細かい事も添付書類等で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理は代表者に届けて判断してもらう仕組み。運営推進会議や家族会、毎月の家族への情報の便り等で機会を設けて実践につなげている。苦情箱の設置をした。	毎月のホーム便りの送付、運営推進会議のほか、家族の来訪時や家族会の際には、ホームの運営等に関して、意向や意見を話し合える機会を設けている。出された意見は、反映できるように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の機会と申し送りノートの設置によって対応している。運営者は系列の施設での会議に管理者も参加させ提案を伝える機会を設けている。	申し送りノートへの記入と、定期的なスタッフ会議での話し合いを通して、職員の気づきや意見、提案を出してもらい、実行に移せるように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体のスタッフ会議の機会を得るのが困難で、勉強の時間が少ない。少ない時間での会議でも、伝わりやすい内容と、「気づきノート」等によって向上心が養われるよう努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連研修に参加できている。研修の機会以外に専門職の評価によって記録などの指導の機会を得たい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連研修会の参加を実践している。近隣の同業者との勉強会等の機会があれば参加し交流を図ってゆきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査などで面会し、聞き取りの機会を設けて入居後の生活の不安面、問題点に対する策を理解を得るまで本人と話す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や質問がしやすいように見学日を入居申し込みの記入欄に沿って説明をしている。聞き取り中にも段階を踏まえて問題点に対しての対応案を納得いくまで話し合う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対象者の個性や希望を踏まえ、対象者とその家族の全体像を見ることに努め、今現在必要なサービスの検討をする。その為には、他のサービスの関係者との連携もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや行事などで一緒に楽しく過ごしている。大正時代の歴史上の人物の話も聞く機会がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時面会に来られて相談事もされており、家族が親身になって最大に支えておられる。中には、日程を決めて、古いレコードを聞かせたり、本の読み聞かせなどを予定して下さるご家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の新聞切抜きや写真集を開いて思い出話を聞いている。地域のボランティア慰問の機会に、馴染みの方と会われたりされている。	馴染みの友人、知人、地域のボランティア、家族が来訪し、交流されている。入居者と馴染みの方の来訪を受け入れ、また、系列施設の敬老会への参加し、馴染みの関係の継続の支援もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を見守りながら支援しているし、入居者全員に対し、平等な関わりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	直面していないが、運営推進会議等に参加できる機会を設けて、意見を聞きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の要望や思い出に関心を持ち、ケアプランに反映させるよう努めている。	本人の発言や普段の関わり、生活場面で聞き取った事柄、家族への生活状況の確認などを通して、希望や意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族に聞き取り調査をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の状況や心身の状態把握をし、記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望に沿うように、関係者で話し合い援助プランとしている。	本人、家族の希望や意向を踏まえ、関係者間で話し合いを行いながら、介護計画の作成がなされている。また、定期的にモニタリング、評価と見直しが行われている。必要時は随時更新されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ会議では検討されているが、サービス提供記録が不十分。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期や体調不良時の受診、処方の受け取り、入退院の付き添いは、殆ど介護職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの支援により夏祭り等の行事の支援を行なっている。民生委員・駐在所・近隣の方々との関わりがもっと必要であると感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への受診には介護職員が付き添いをして受診の際には、熱型票や近々の状態をまとめて主治医に参考にしている。	入居前のかかりつけ医やホームの協力医療機関など、希望や意向に沿った受診支援がなされている。受診の際には、普段の健康状態など情報を提供できるよう準備され、適切な医療を受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と週二回契約している。状態の心配な入居者の事で相談をし、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が中心となり病院と連携、情報交換をしている。入院中の洗濯物等は介護職員が対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいないが検討してゆく。家族会やお便り等で、早めの取り組みの機会を検討。	開設から現在まで重度化で対応された方はいない。ホームでは、重度化した場合における対応の指針を作成され、入居時に説明と同意を得られている。現在のところ看取りの対応はされていないが、本人、家族、主治医など関係者と話し合いながら、可能な限りのケアを行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備、訓練・研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マベックの立会いの下、夜間想定での訓練を実施している。また、地域の民生委員氏より、地域の「避難訓練」に施設として参加したらどうか？少なくとも、「避難訓練」結果報告はほしいとの積極的な支援の意向を頂いている。	年2回、通報や消火、避難等の訓練が行われている。防災対策では飲料水、食料の備蓄が行われている。地域の防災意識が高く、自治会の求めに応じて、避難訓練の内容や結果を可能な範囲で提供されている。	地域の避難訓練への参加や協力など、運営推進会議等で話し合いながら、火災以外の地震や水害等を想定した対策や、避難のあり方について検討し、地域との協力体制を築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接し方、声掛けなどのコミュニケーションの際には配慮するように、スタッフ会議では注意をしている。	トイレや入浴など、プライバシーに特に配慮を要するケアを行う際には、言葉を選んで接するように努められている。気付いた点は、申し送りノートに記入し、会議などで職員全体で振り返る機会を持つようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、傾聴により本人の要望等を知る機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルに合わせて、入居者のペースを守り、意思の尊重をしつつ気持ちの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の要望に沿うように、関係者で話し合い援助プランとしている。派遣美容か、馴染みの美容室を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を入所者と一緒にするのは難しいが、盛り付けや、片付けの部分では、出来るだけして頂くようにしている。	おしぼりの準備やトレーを拭いたり、食事の盛り付け、片付けなど可能な範囲で入居者と職員と一緒に行われている。馴染みの食器や湯飲みの使用、誕生会の際には、お菓子作りなどをされ、楽しむ食事の支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた食事と水分補給は頻繁に行なっている。また、空気乾燥中の折は、大きな加湿器が働いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、義歯の清掃の支援を毎日行っている。出来る限りは、一人一人自力でやってもらい、不足している部分を介助者が支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じて、本人の了承を得、適切な排泄の支援をしている。すべての入居者の、大体の排泄パターンを介護職員は把握しており、可能な限りトイレに時間ごとの誘導をしている。	排泄リズム、パターンを把握し、入居者それぞれの時間に合わせて、トイレへ誘導されている。また、入居者の意向や身体機能に応じて、オムツなどの排泄ケア用品を選択し、排泄の自立支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の健康記録を確認し、便秘予防及びスムーズな排便に対する対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、曜日を定めて入浴日を決めているが、要望には随時応じている状況。足部の皮膚疾患の方などには、毎日の足浴を実施している。	ホームで定めている曜日に入浴の支援をされているが、入居者の希望や身体の状態に合わせて、柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	要望や声掛けにより、自由に自室で休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員は各入居者の服薬の在り方を把握しているため、処方箋の内容を確認しながら、必要なら錠剤を砕くなどして、確実に服薬が出来ているかの管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、新聞紙折り、布切り、盛り付け、献立記入、テーブル拭き等、個々で出来ることをそれぞれ意欲的にされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院リハビリや行事、外出レクリエーションの支援は主に介護職員で、その他の場合は家族の協力を得ている。	入居者の身体状況、気候に応じて、テラスでの外気浴やホームの庭、買物など職員と一緒に出掛けられている。また、花見など年に数回、季節に応じた外出もされている。家族に協力を得ての外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中の1名は家族との了解の下、お金を所持し、自己管理をしている。2名は家族の了解で所持のみしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、家族の了解の中、自由にして頂いている。必要な部分を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい環境と室内には時節感のある物例えば「お雛様」や「兜」「生け花」、折り紙で作った工作などを展示して工夫をしている。	窓も大きく、日当たりも良く、明るい共用空間である。各場所に季節の飾りや折り紙の作品が分かりやすく展示され、季節感を出す工夫がなされている。また、自動加湿器、24時間換気などの空調設備も整えられている。また、テラスや廊下から、庭へ向かうスロープが設置され、散策しやすい工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士の交流に配慮をしている。また、自室での静養も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ湯呑や食器、仏壇、写真などで穏やかに過ごせるよう配慮している。	各居室には、トイレ、洗面台も設置されている。家族の写真、仏壇、湯呑みなど馴染みの物を持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。また、入居者の希望や、身体の状態に応じて、畳も準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るまでゆっくり声掛けして支援している。		